

第2回

ECOTOURISM AWARD 2006

エコツーリズム大賞

地球と人に優しい旅を！
日本のエコツーリズムの担い手たち



■ 主催者のことば

第2回エコツーリズム大賞の実施にあたって — 2

■ 審査委員長講評

「第2回エコツーリズム大賞」の選考を終えて — 2

第2回エコツーリズム大賞の概要 — 3

大賞受賞者の紹介 — 4

優秀賞受賞者の紹介 — 5

特別賞受賞者の紹介 — 7

推薦された団体一覧 — 9

第2回エコツーリズム大賞の実施にあたって

環境省自然環境局自然ふれあい推進室長 岡本光之



第2回エコツーリズム大賞を実施するに当たって、第1回に引き続き全国各地より応募があり、数多くの意欲的な取組みの中から各賞を決定することができました。改めまして選考委員を始め関係者各位の御理解、御協力に感謝申し上げます。

南北に細長い日本列島は、亜寒帯から亜熱帯までの多様な大自然が存在し、また、地域独特の里山文化を残しています。

このような豊かな日本の自然を後世まで末永く引き継いでいくためにも、多くの方々にこうした自然を直接体験し、保全への理解を深めていただくことが重要であり、エコツーリズムを推進することの意義を益々感じているところです。

こうした中、平成16年度のエコツーリズム推進会議以降の動向を振り返ってみると、全国各地からのエコツアー事業者や行政機関の活動はもとより、地域の住民

を中心とした方々の主体的に取り組む例も見られはじめました。エコツーリズムは、地域の方々が、地域の自然や文化に誇りを持ち、地域の元気を取り戻すツールであるという点も明らかになってきています。今後ガイドンスとルールづくりを組み合わせたエコツーリズムが全国各地に波及し、更に発展するよう大きな期待を持っているところです。

環境省では、エコツーリズムの普及・啓発活動に引き続き取り組むとともに、人材の育成、国立公園やラムサール登録湿地におけるエコツーリズムの仕組みづくりの支援などの多面的な取り組みを行い、エコツーリズムの推進施策をさらに充実させていきたいと考えています。

今回受賞された方々はもとより、エントリーされた数多くの関係者におかれましては、日本のエコツーリズム推進の牽引役として御活躍されることを祈念しています。

「第2回エコツーリズム大賞」の選考を終えて

東京大学大学院農学生命科学研究科教授 下村 彰男



「多彩な領域からのエントリーがあるな」という点が第一印象でした。エコツアープログラムやガイド提供を中心とする会社組織、自然保護問題を出発点とするNPO、環境教育を主たる目的としている組織、地域振興を目指している公共性の高い団体など、組織形態も様々ですが、中心とする活動も様々だと感じたわけです。ただ、これらは各々の組織の出発点あるいは軸足の置き方にすぎません。上記した活動の性格は、今回の大賞の審査基準にも掲げている内容であり、各々の組織は、多かれ少なかれこれらの性格の全てに留意しながら活動を進めていると言えます。したがって、多彩な領域からエントリーがあることは、エコツーリズムが総合的な概念であることの表れであると理解されます。エコツーリズムは、資源である地域の自然環境や生活文化を持続的に保全し、育成していくことを内包した新たな観光概念です。したがって、その担い手あるいは仕組みとして、地域が元気に活性化していることが条件であり、その点への貢献も求められます。キラリと光る得意な領

域を持ちつつも、総合性を志向していくことが重要であり、これからも評価されていくべきであると考えています。

また、審査という点では、2年目であることの難しさを実感しました。当初より、予想されていたことですが、昨年度の入賞組織からの再エントリーがあった点です。昨年度、入賞している訳ですから、優れた活動をされていることは間違いありません。しかしながら、毎年、入賞常連組織が顔を並べる表彰制度もおかしなものです。従いまして、昨年度の入賞組織に関しては、この一年、発展的に活動したか否かを評価することにしました。一般的には上記の総合性、各基準の達成度の高さに加えて、活動の継続性も評価しましたが、昨年度入賞組織に関しては、さらに単年度の発展性が加わったこととなります。評価基準が部分的に高くなっていますが、これは多くの組織に機会を与えるという点ではやむを得ないであろうと判断しました。ご意見等をお寄せいただけたら幸いです。

第2回エコツーリズム大賞 | 概要

大賞の趣旨

エコツーリズムを推進するため、エコツーリズムを実践する地域や事業者の優れた取組みを表彰し、広く紹介するもので、更なる質の向上や継続に意欲を与えるとともに、関係者の連携、情報交換などによる連帯意識の醸成を図ることを目的としています。

受賞者一覧

大賞

ホールアース自然学校（静岡県富士郡芝川町）
エコツーリズム推進エンジンとしての総合力

優秀賞

特定非営利活動法人 霧多布湿原トラスト（北海道厚岸郡浜中町）
エコツーリズムによるまちづくり

白神マタギ舎（青森県中津軽郡西目屋村）
白神の自然と関わってできたマタギの知恵を伝える

特定非営利活動法人 黒潮実感センター（高知県幡多郡大月町）
島が丸ごと博物館 持続可能な里海づくり

特別賞

特定非営利活動法人 たてやま・海辺の鑑定団（千葉県館山市）
「身近な自然から再発見！」南房総のエコツーリズム

加賀市観光協会・加賀市観光情報センター（石川県加賀市）
温泉プラスもうひとつの小さな旅

富士山登山学校ごうりき（山梨県富士吉田市）
「人・自然・地域が合力する」富士山エコツーリズムを目指して

特定非営利活動法人 信越トレイルクラブ（長野県飯山市）
広域連携によるエコツーリズムの実践

松本電気鉄道株式会社・濃飛乗合自動車株式会社（長野県松本市・岐阜県高山市）
貴重な自然を護り残すため、人と環境に優しい低公害バスを運行

海島遊民くらぶ（有限会社オズ）（三重県鳥羽市）
素敵な自分を発見する旅
～生き物とふれあい、漁村でゆったり島を満喫～

大賞の経緯

2006年

10月16日 公募開始

12月11日 応募締め切り。76件の応募

2007年

1月5日 審査委員会開催。大賞1点、優秀賞3点、特別賞6点を選定

1月19日 受賞者の公表

1月29日 表彰式



大賞授与



大賞、優秀賞、受賞者

審査委員会

下村 彰男（委員長） 東京大学大学院農学生命科学研究科教授
石山 醇 社団法人 日本旅行業協会理事
海津ゆりえ NPO法人 日本エコツーリズム協会理事
桜井 義維英 NPO法人 自然体験活動推進協議会理事
佐藤 博泰 松本大学総合経営学部
観光ホスピタリティ学科教授

ホールアース自然学校

エコツーリズム推進エンジンとしての総合力

富士山全域、新潟県柏崎、
沖縄やんばる地域及び那覇周辺

講評

拠点である富士山麓地域にとどまらず、全国的にかつ長期にわたってエコツーリズムへの貢献度が高い点が評価される。総合的な展開が心がけられており、ルール、ガイドンス、環境保全、地域への貢献のどの取組みも評価が高く、また常にエコツーリズムの最先端の活動に取組み、JICA 研修による途上国支援等にも貢献している。平成 18 年度には新潟において災害教育の新たな視点を取り入れるなど、各地域の状況に合わせたエコツーリズムの展開を図るための拠点づくりという点で着実な進展が見られる点も評価される。



応募の概要

ポスト・バブル時代に「持続可能性」という言葉が一般化するなかで、「環境」と「観光」の両立を図るエコツーリズムは、持続型社会を実現するための実践的な手法として注目されてきました。私たちは、有志とともにエコツーリズム研究を始めた 90 年代初頭以降、今日に至るまで理論・実践の双方において、様々な活動を途切れることなく続けてきました。エコツーリズムの概念整理やエコツアープログラムの開発・実施、資源管理手法の体系化、そして独自のカリキュラムによるガイド養成などに取り組むと同時に、そこで得られたノウハウを地域に積極的に移転することで、日本全体のエコツーリズム推進に寄与してきました。



理論として合理的にまとめられたエコツーリズムは、地域で実践する段階で様々な問題・確執を生み出すことがあります。私たちは、むしろ“火中の栗”を拾うことで多くを学び、次の展開に活かすことで、エコツーリズムの時代を拓く力としてきました。「始めたら止めない」をモットーに、これからも理論・実践双方における総合力を発揮し、エコツーリズムの推進に尽力していきたいと考えています。

受賞の言葉

「ホールアース自然学校は今年で丁度 25 周年を迎えます。節目となる年にエコツーリズム大賞を受賞することができ、大変嬉しく思います。エコツーリズムと一口で言っても、様々な切り口があります。エコツアー事業者、企業や行政事業の支援者、研究者、そして地域の生活者といった複合的な役割を、それぞれ本気で果たしてきたことが総合力として評価していただいたのだと考えています。これからも全国の仲間と共に、悩みながらも前に進むことを続けていきます。」



活動内容

「日本型自然観の回復」を通じた持続型社会の実現を目指し、活動を続けて四半世紀。富士山麓を本拠地として、新潟、沖縄など全国5箇所で実体験型環境教育プログラムの提供（年間8万人/平成17年度）、ビジターセンターの運営、企業・行政向けコンサルテーション事業、人材養成事業等を展開しています。また、各国からの研修生受入れや外国人旅行者へのプログラム提供、災害救援活動、ネットワーク支援事業を行っています。富士山本校では、家畜動物の飼育や田畑作業を通じて、里山の暮らしを都市部の人々に提供・提案しています。

組織の沿革

代表者名：広瀬敏通
設立：1982年（旧名：動物農場）
所属人数：常勤35名・非常勤2名（2007年1月26日現在）

連絡先

〒419-0305
静岡県富士郡芝川町下柚野165
TEL：0544-66-0152 FAX：0544-67-0567
E-mail：info@wens.gr.jp
Web：http://wens.gr.jp

優秀賞

特定非営利活動法人 霧多布湿原トラスト

エコツーリズムによるまちづくり

北海道、霧多布地域

講評

長期にわたるトラスト活動の実績に加え、エコツアーを連携することにより、より多くの人を環境保全に参加させている。ビジターセンター等とも連携し、地元住民をガイドとするなど、地域の協力を得た活動が展開されている。ツアーについても自己評価を欠かさず行う等、品質の保証につとめている。また平成18年度には、地域の子どものための環境教育のための子どもクラブの発足などの取り組みを始めており、常に新しいことに取り組んでいる点も評価される。



ユウスゲ

応募の概要

私達は町づくりの手段として「エコツーリズム」をとらえ、その仕組み作り行政、民間、産業団体と共に取り組んできました。霧多布湿原の保全は我々のもっとも大切にしているテーマですが、より多くの人々に参加してもらえるような活動を常に心がけています。エコツアーや地域の子どものための環境教育、また湿原を楽しむための木道設置作業など、様々な人々と関わりを作ることで、エコツーリズムは行政や地域全体の大きな方向として形となってきました。

活動内容

霧多布湿原は国内3番目の広さを持ち、夏に見せる花の景観は国内でも最大級だといわれています。また1993年には「ラムサール条約」に登録され、その価値が国際的にも評価されてきたところです。一方その霧多布湿原の保全については、湿原の周辺部が民有地となっているため、その民有地を残せるかどうか大きな鍵となっています。

そこで私達は、この湿原を愛する人々の輪を広げ、自然がもつ豊かさや価値を、多くの人々に伝える活動を行うと共に、市民が主体となってナショナルトラストによる湿原の保全を進めるため「霧多布湿原トラスト」を設立しました。



組織の沿革

代表者名：三膳時子
設立：
1986年 霧多布湿原ファンクラブ発足
2001年 NPO法人霧多布湿原トラスト設立
2004年 認定NPO法人へ
所属人数：9名

連絡先

霧多布湿原トラスト
〒088-1531
北海道厚岸郡浜中町仲の浜122番地
TEL：0153-62-4600 FAX：0153-62-4700
Web：http://www1.ocn.ne.jp/~wetlands/

霧多布湿原センター
〒088-1367
北海道厚岸郡浜中町4番沢103-19
TEL：0153-65-2779 FAX：0153-65-2774
担当：阪野真人 (ban@kiritappu.or.jp)
E-mail：center@kiritappu.or.jp
Web：http://www.kiritappu.or.jp/center/

優秀賞

白神マタギ舎

白神の自然と関わってできたマタギの知恵を伝える

白神山地



講評

過酷な自然のなかで糧を得て生きてきた体験をもとに、自然資源の大切さと保全、持続的利用のあり方を学ぶことができるツアーを実施している点が評価できる。質の高いガイドングに加え、参加者の満足度を高めるための工夫によりリピーター客も多く、プログラムには、「白神」という地域性を常に意識するとともに、調査で得た知識や最新の研究結果も取り入れるなど常に進化することを心がけている。

応募の概要

現役のマタギを中心に、生活や研究などを通じて深く白神山地と関わり合いを持った者たちが集まってつくったガイドグループです。白神山地のマタギの持続的な自然資源利用、特に自然との論理的で合理的な付き合いの伝統を、できるだけ少人数のお客様に丁寧に伝えたいと思っています。同時に新しい知識を得たり、お客様との語らいから教える受けることに、大きな喜びを見いだしています。

活動内容

世界遺産地域に限らず、白神山地全体をフィールドにエコツーリズム活動を行なっています。観光客、ことにマストゥーリストの少ないルートを中心に、ときには道のないところもご案内して、白神山地の自然とその成り立ちを説明するかたわら、山菜やキノコの採り方や残し方を説明します。時間が許せば、収穫したものはこの土地の料理の仕方で味わっていただきます。単に、植物や動物の名前を説明するようなことは避け、それらと人々、特にこの土地の人々との関わり合いをお伝えするよう心がけています。



組織の沿革

代表者名： 工藤 光治
設立： 2000年5月12日
所属人数： 8名

連絡先

〒036-1411
青森県西目屋村田代神田104-35
TEL & FAX：0172-85-2415
Web：http://www.geocities.jp/matagisha/
(E-mailによる予約は行なっておりません)

優秀賞

特定非営利活動法人 黒潮実感センター

島が丸ごと博物館 持続可能な里海づくり

高知県柏島周辺地域

講評

わが国固有の海流と海洋性の環境を利用した生活に近い場所でのエコツーリズム例で、暮らしに近い自然環境とどのように向き合っていくかに取り組んでいる。ダイビング業者と漁業者の調整のためのルール作りにも主体的に奔走したり、生活者としての島民の生の声を聞き、島民と事業者の心の垣根を払うことにつながりたりするなど、地域で貴重な団体になりつつある。新たな保全事業への取り組み、アクティビティの増加、参加者の範囲の拡大など、昨年度の特別賞のときから格段に前進している。

応募の概要

これからの時代のキーワードは「実感」であると考え、単なる体験だけではない実感を伴ったエコツーリズムのあり方を提案するために、地域の自然環境の調査研究を元に環境の価値付けを行い、それを活用した環境学習やエコツーリズムの推進、および素晴らしい自然環境の目減りしない利用のための地域独自のルール作りにも地域住民とともに取り組んでいます。黒潮実感センターでは海の環境の保全と人の暮らしが並び立つ「持続可能な里海づくり」に取り組んでいます。



活動内容

温帯域にもかかわらず亜熱帯域をしのぐ1000種以上の魚類が生息している柏島を「島が丸ごと博物館」と捉え、人が海からの豊かな恵みを受取るだけでなく、人も海を耕し守る、持続可能な里海づくりを目指している。地域内外の人に柏島の素晴らしさを実感してもらい、守り育ててもらうために、自然を実感する取組、自然を活かした暮らしづくり、自然と暮らしを守る取組の3つの事業と、人と自然、漁業とレジャー、外部と内部の人の3つの調和を目標に実施している。

組織の沿革

代表者名： 立川 涼 (理事長)
設立： 2002年10月4日 (活動開始は1998年4月1日)
会員数： 約600名

連絡先

〒788-0343 高知県幡多郡大月町柏島625
TEL：0880-62-8022 FAX：0880-62-8023
E-mail：kuroshio@divers.ne.jp
Web：http://online.divers.ne.jp/kashiwajima/

特別賞

特定非営利活動法人 たてやま・海辺の鑑定団

「身近な自然から再発見！」南房総のエコツーリズム

千葉県南房総地域

講評

全国的なエコツーリズムへの取り組みの中で、都心近郊である千葉という地の利を理解し、海辺の環境を活用した入門的エコツアーを展開するべきという、役割を意識して活動している点が評価される。入門という役割の中で、教育委員会や観光協会など地域の各種団体と緊密に連携をとりながら展開している意味は大きい。

活動内容

首都圏から近く豊かな自然が残る南房総館山にて、海辺の自然観察やビーチコーミング、夏季のスノーケリング、カヤック体験、冬季の里山をめぐるネイチャーツアーなどの海辺の自然体験（エコツアー）と海岸の調査や海岸清掃活動などの環境教育と環境保全の実践を様々な団体と連携して通年実施しています。

組織の沿革

代表者名： 竹内 聖一
設立： 2004年4月27日
所属人数： 20名

連絡先

〒294-0032 千葉県館山市笠名 1138-2
TEL & FAX：0470-24-7088
E-mail：umibenokanteidan@aol.com
Web：http://tateyama-umikan.ms-n.com/



特別賞

加賀市観光協会・加賀市観光情報センター

温泉プラスもうひとつの小さな旅

石川県加賀市加賀温泉郷

講評

温泉を単に観光資源としてではなく、地域の貴重な自然資源、文化資源の一部として捉え、環境や伝統文化などを保全しながら地域の街づくりに結びつけるというわが国におけるエコツーリズムの課題にひとつの答えを提供している点が評価される。

活動内容

地域情報の中枢基地として、また地域内の足の拠点として、行政、観光協会、交通の三者が共同運営する加賀市観光情報センター「KAGA旅・まちネット」。資源・情報・宿泊・移動をきめ細かくデザインした予約制ガイドツアー「四季の風景散歩」を実施、各地区住民による地域の自然や伝統文化の再評価と活用を図っています。

組織の沿革

代表者名： 萬谷正幸
設立： 1996年5月
会員数： 185名

連絡先

加賀市観光情報センター「KAGA旅・まちネット」
石川県加賀市作見町ル 25-1（JR加賀温泉駅前）
TEL：0761-72-6678 FAX：0761-72-6679
E-mail：tabimati@circus.ocn.ne.jp Web：http://www.tabimati.net/



特別賞

富士山登山学校ごうりき

富士山全域

「人・自然・地域が合力する」富士山エコツーリズムを目指して

講評

大型観光地である富士山で、エコツアーに徹底的にこだわり、ルールの方策、きめ細かいガイダンス、環境保全に取り組んでいる。人材育成など、後継者の育成にも取り組み、一民間事業者を越えた地域全体に波及する活動を行っている。富士山における環境問題なども積極的に伝え、観光客への環境配慮の普及啓発に努めている。

活動内容

登山者に対する事前説明会を全国で開催し、富士山全域において自然体験活動、講演、エコツアーなど、日本人のみならず外国人にも富士山固有のプログラムを提供しています。「人と自然」「人と人」「自分自身」をキーワードに、「富士山ホスピタリティ事業」を展開中。また、地域住民への体験と理解を促す活動を続けています。

組織の沿革

代表者名： 近藤光一
設立： 2002年10月1日
所属人数： 5名

連絡先

〒403-0012 山梨県富士吉田市旭 4-1-14
TEL：0555-24-1032 FAX：0555-24-1052
E-mail：info@fujitozan.jp
Web：http://www.fujitozan.jp



特別賞

特定非営利活動法人 信越トレイルクラブ

広域連携によるエコツーリズムの実践

長野県及び新潟県関田山脈

講評

道という昔からどこにでもある資源を使い、広域トレイルを核としたエコツーリズムの展開を試みている点が評価される。複数自治体との間で環境保全、ルール作り、ツアーの実施、仕組み作りを、トレイルという線で結ぶという方策は、他の地域においても参考となる。地域との峠道、トレッキング道をつなぎながら人々の暮らしや生活を身近に感じるコースになっていて、地域連携のモデルとしても将来性がある。

活動内容

トレイルの整備・維持管理・活用を広域連携で行い、自然・歴史・文化といった地域の資源を守り後進に伝え、また観光の振興に寄与することを目的としています。行政、民間団体、各地区住民による計画として始まり、計画づくりからトレイル整備、自然環境調査に至るまで住民やボランティアの力によって行われています。



組織の沿革

代表者名： 小山邦武
設立： 2003年9月2日
所属人数： 20名(事務局5名を含む)、会員200名

連絡先

〒389-2601 長野県飯山市照岡 1571-15
TEL：0269-69-2888 FAX：0269-69-2288
E-mail：office@s-trail.net Web：http://www.s-trail.net/

特別賞

松本電気鉄道株式会社・濃飛乗合自動車株式会社

貴重な自然を護り残すため、人と環境に優しい低公害バスを運行

長野県及び
岐阜県上高地、乗鞍岳周辺

講評

マイカー規制エリアにおいて、シャトルバスの全車両を低公害のハイブリット車にしており、導入前より窒素酸化物が25%削減されるなどの実績があり、環境保全への効果がでている。マイカー規制協議会への分担金支出による環境面での地域還元など交通機関としてのエコツーリズムの実現への協力が評価される。

活動内容

松本電気鉄道株式会社：バス・鉄道事業を中心に地域に根ざした企業として事業を展開。平成6年以降、マイカー規制の行われている上高地エリアに順次低公害ハイブリッドバスを導入し、現在の保有数は75両。乗鞍地域も合わせ全てのシャトルバスをハイブリッドバスにて運行。



松本電気鉄道の低公害ハイブリッドバス

濃飛乗合自動車株式会社：岐阜県の飛騨地区を中心にバス事業を展開。中部山岳国立公園内を運行する路線バスについては、平成10年より低公害バスを順次導入。特にマイカー規制の行われている上高地・乗鞍では、現在全てハイブリッドバス等の低公害バスで運行。

●松本電気鉄道株式会社

組織の沿革
代表者名： 取締役社長 瀧澤 徹
設立： 1920年3月
従業員数： 402名

連絡先

〒390-0831 長野県松本市井川城 2-1-1
TEL：0263-26-7000(代) FAX：0263-27-2900
E-mail：matsuden-eigyo@alpico.co.jp
Web：http://www.alpico.co.jp/mrc/

●濃飛乗合自動車株式会社

組織の沿革
代表者名： 取締役社長 佐藤 健
設立： 1943年4月28日
所属人数： 230人

連絡先

〒506-0026 岐阜県高山市花里町6-65
TEL：0577-32-0045 FAX：0577-32-2193
Web：http://www.nouhibus.co.jp



濃飛乗合自動車の低公害バス

特別賞

海島遊民くらぶ(有限会社オズ)

素敵な自分を発見する旅

～生き物とふれあい、漁村でゆったり島を満喫～

三重県鳥羽市離島地域

講評

民間企業による環境保全を意識した離島型エコツアー経営の例。地域の漁協との連携などにより、地域社会との協調性を高め、さらに地元の人々と協同で資源保全を図りつつ、地産地消など地域の経済効果を高める努力を行うなどの取り組みが評価される。

活動内容

鳥羽の離島を中心としたエコツアーの企画・運営。関西・関東の修学旅行生向け体験プログラムの企画・コーディネート・実施。JPR(環境省・文部科学省連携事業子どもパークレンジャー)実施。環境保全の為、自主ルールや資金提供メカニズム(売上からの資金提供)の設定を通してお客様だけでなく地元への環境保全への啓発。



組織の沿革

代表者名： 江崎貴久
設立： 2001年9月12日
従業員数： 10名

連絡先

〒519-0503 三重県伊勢市小俣町元町 1837
〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽1丁目 10-52 旅館海月内
TEL：0596-22-6900 FAX：0599-25-5539(海月内)
E-mail：kurage@oz-group.jp Web：http://oz-group.jp

推薦された団体一覧

* 「モデル地区」とは、環境省が実施しているエコツーリズム推進事業のモデルに指定されている地域のことです。

都道府県	名称	取り組みの概要	実施地域*
北海道	NPO 法人 霧多布湿原トラスト	民・官・産業団体での連携。漁師・酪農家がガイドとして活躍できるエコツアーを開催。トラストの仕組みづくり。	北海道浜中町 (霧多布湿原)
	NPO 法人 知床ナチュラルリスト協会	流水の活用。アイヌ民族との活動、ガイドツアーによりアイヌ民族の知恵への理解を深める場を提供	北海道斜里町 (知床モデル地区)
青森県	NPO 法人 白神山地を守る会	森林組合や県・町と組み植樹祭を開催。エコロジー体験ツアーを毎年開催。ブナの植林を行っている。	青森県青森市 (白神モデル地区)
	白神マタギ舎	森で資源の持続的利用についてを体験できるマタギ小屋宿泊ツアーと冬のトレッキングツアー。	青森県西目屋村 (白神モデル地区)
	岩崎自然ガイドクラブ	地元の人と触れ合う体験を推進し、自然体験、伝統文化体験を提供。	青森県深浦町 (白神モデル地区)
	NPO 法人 岩木山自然学校	世界遺産白神山地のみを捉えるのではなく、津軽の自然歴史人暮らしを捉えたエコツアーの取り組み。	青森県弘前市 (白神モデル地区)
岩手県	体験村・たのはた推進協議会	漁業と観光の一体化。「番屋エコツーリズム」と名づけた村の営みに溶け込む体験・滞在型観光。	岩手県田野畑村
	岩手子ども環境研究所 (森と風のがっこう)	廃校を活用し、ワークショップやスローツアーなどを開催。自然エネルギーの普及にも取り組む。環境・地域学習を提供。	岩手県葛巻町
福島県	裏磐梯エコツーリズム推進協議会	裏磐梯エコツーリズムカレッジの運用。	福島県北塩原村 (裏磐梯モデル地区)
	NPO 法人 A.R.S	観光協会、森林組合、宿泊施設、自治体と連携をはかり、受け入れ体制を確立。	福島県南会津町
	NPO 法人 いわきの森に親しむ会	国有林をボランティアの森として、保全管理。森の学校の運営。市民・小学生を対象とした環境教育ボランティア活動の実践。	福島県いわき市 (湯の岳)
群馬県	NPO 法人 浅間山麓国際自然学校	浅間山麓の広域地域で複数自治体や事業者などと、地域活性化に取り組む。首都圏からの観光客誘致にくわえ、地元住民へのプログラムの提供。	群馬県嬭恋村 (浅間山麓)
埼玉県	名栗エコツーリズム協会 —名栗山人会 (なぐりやまんちゅかい)	地元の人が地元の言葉で地元をガイドする。2006年は11本のユニークなツアーを催行。	埼玉県飯能市 (飯能市・名栗モデル地区)
千葉県	市川市	三番瀬における賢明な利用の実態と身近な自然保護に関する理解を促進。	千葉県市川市 (三番瀬)
	NPO 法人 たてやま・海辺の鑑定団	自然観察体験を提供。市や教育委員会と連携した環境教育保全活動に貢献。	千葉県館山市
東京都	エコツアー・ドット・ジェイピー (株式会社クールインク)	エコツアーを中心に、自然と環境に関するポータルサイト「エコツアー・ドット・ジェイピー」を運営。	東京都豊島区
	有限会社リボン	バイオディーゼル燃料を使用した貸切バスを誕生させる。それを利用した過疎地へのエコツアーを実施。	東京都新宿区
	小笠原母島観光協会	母島森林ガイド制度を確立し保全と利用の両立を目指す。適正利用のための共通ルールも設定。	東京都小笠原村・母島 (小笠原モデル地区)
	小笠原ホエールウォッチング協会	1989年から自主ルールを運用。ガイド育成、研究・普及活動、新たなツアー開発などに取り組む。	東京都小笠原村 (小笠原モデル地区)
新潟県	水原メダカの楽耕	棚田オーナー制度など富山の環境保全に取り組むとともに、農山村体験・自然体験交流活動を行っている。	新潟県妙高市 (妙高水源地区)
	あてま自然学校	ホテル内の自然学校。フクロウや森林の研究などを受託し、プログラムに活かしている。	新潟県十日町市
	環境学校市民活動運営会議	住民参加の仕組みづくり。エネルギーという資源を活かしたエコツアーの開発。	新潟県柏崎市
	ホールアース自然学校 新潟校	地震からの地域復興の仕組みづくり、エコツアー開発。	新潟県柏崎市
富山県	高岡市北部地域 グリーンツーリズム推進協議会	農林漁業者、PTA、児童クラブ指導者、観光ボランティア、行政など様々な人々のネットワークの形成。農林漁業に加え、自然体験・歴史・文化など多様な体験型観光ツアーを展開。	富山県高岡市
石川県	加賀市観光協会・ 加賀市観光情報センター	温泉観光と自然・文化資源の接点づくりによる交流型温泉地へ転換への仕組みを確立。	石川県加賀市
福井県	奥越前まんまるサイト (ノーム自然環境教育事務所)	二地域の架け橋になり、地域の暮らしと文化を継承できる仕組み作り。	福井県大野市・勝山市
	小原 ECO プロジェクト	エコツーリズムによる地域の再生と、地域自然環境のルールによる保護と利用。地域住民を主体とした環境教育、地域の活性化。	福井県勝山市

推薦された団体一覧

都道府県	名称	取り組みの概要	実施地域*
山梨県	やまねミュージアム	国際的な研究成果をエコツアーに反映している。「ヤマネブリッジ」等による具体的な環境保全の実施。	山梨県北杜市（清里）
	富士山登山学校ごうりき	推進団体の設立運営への取り組み。地域観光振興財団職員の人材養成への取り組み。	山梨県富士吉田市（富士山北麓モデル地区）
	特定非営利活動法人 富士山エコネット	地域団体のみならず、企業、大学との連携。地元へ利益還元。	山梨県富士河口湖町（富士山北麓モデル地区）
	富士河口湖町公認 ネイチャーガイド協議会	既存のガイドラインに加え、自主ルールを策定しツアーを実施。町からの受託に加え、主催ツアーの実施。	山梨県富士河口湖町（富士山北麓モデル地区）
長野県	信州・信濃町癒しの森 事業推進委員会	森林療法を核に、官民協働でエコツーリズム（ヘルス）を提供するシステムを構築。地域振興、資源保全に取り組み。	長野県信濃町（癒しの森）
	松本電気鉄道株式会社	マイカー規制エリアにおけるシャトルバスの低公害車両の導入。導入前より窒素酸化物 25% 減などの実績。	長野県松本市（上高地、乗鞍岳）
	特定非営利活動法人 信越トレイルクラブ	13 市町村・市民・ボランティアと連携したガイドラインルールの策定。環境教育、利用者サービスの構築。	長野県飯山市
	NPO 地域づくり工房	環境グループ農業団体商店街観光業と連携して、地域おこしと連動したエコツアーの実施。	長野県大町市
	NPO 法人 大平宿をのこす会	大平宿を生活原体験の場として活用し、保全している。	長野県飯田市（大平宿）
岐阜県	濃飛乗合自動車株式会社	国立公園に低公害バスを導入。上高地と乗鞍岳への路線は全てハイブリッド車で運行。	岐阜県高山市（上高地、乗鞍岳）
	NPO 法人 白川郷自然共生フォーラム	自然体験・伝統文化体験・環境技術体験を提供。地元の合掌づくり民宿との連携。	岐阜県白川村
静岡県	NPO 法人 ホールアース研究所	専門団体として JES とともに六甲地区でのエコツーリズム推進。全国各地に専門家の派遣。 理論・実践双方における総合力の発揮によって、エコツーリズムの推進に貢献	静岡県富士山麓及び全国各地
	ホールアース自然学校	JICA 集団研修。自然体験を通じた環境教育トレーニング。途上国の環境教育指導者に向けてエコツーリズムの普及啓発活動を行う。	静岡県（富士山麓）
三重県	三重県観光開発株式会社	四季の観察会、食育の啓蒙。	三重県朝熊山
	海島遊民くらぶ（有限会社 オズ）	離島ならではの自然・文化の魅力を伝える。地元漁協との連携、子どもを含む住民と一体となった仕組みづくり。	三重県鳥羽
	NPO 法人 赤目の里山を育てる会	宿泊事業者（エコリゾート）としてエコツーリズムに参入、事業型里山保全活動。	三重県名張市
	紀南ツアーデザインセンター	風土色濃い個性的なエコツーリズムの浸透と事業化。エコツーリズム理念の確立、工法、人材育成に努力。	三重県熊野市
	大杉谷自然学校	災害復興を取り入れたエコツーリズム。	三重県宮川村（大杉谷地域）
滋賀県	針江生水の郷委員会	失われつつある里山の暮らしや環境保全の大切さを地域内外に発信。	滋賀県高島市
	有限会社 地域観光プロデュースセンター	県内のツアーの情報発信。シンポジウムなどを実施し県内での推進活動を実施。	滋賀県全域
奈良県	財団法人 吉野川紀の川源流物語	村有林を使って環境教育のフィールドとしたツアーを実施。源流部の自然、文化、歴史から学ぶ「源流学」をプログラム化。	奈良県川上村（吉野川流域）
兵庫県	NPO 法人 六甲山と市民のネットワーク (RCN)	六甲山地域での活性化に伴う仕組み作りと地域密着での事業展開。六甲山系をフィールドにエコツアーを展開。魅力創出事業を展開。	兵庫県神戸市（六甲山）
島根県	温泉津温泉 旅館吉田屋	竹の刈り取りを組み込んだユニークなツアーの展開。	島根県大田市（温泉津）
	子供ハウスツアーズ株式会社	大阪で子育て中の母親達が出資して設立。二地域居住や田舎への UIJ ターンにつながるような仕組み作り。e ラーニングの仕組みづくり。	島根県大田市

都道府県	名称	取り組みの概要	実施地域*
山口県	エコツーリズム秋吉台地域戦略会議	ラムサール湿地のワイズユースの推進。モニターツアーの実施。	山口県秋芳町（秋吉台）
	山口県萩青年の家	地域の教育力向上を図る取り組み。	山口県萩市
	NPO 法人きららの里	1つの題材を取り上げ、循環の仕組みを伝える。	山口県美弥市
香川県	長行の自然を守る会	外来魚の駆除。	香川県さぬき市
高知県	NPO 法人 黒潮実感センター	柏島の環境保全と豊かな島の暮らしづくりを共存させた取り組み。体験学習セミナー開催・憲章づくりなど多岐に渡る活動。	高知県大月町（幡多郡柏島）
	海癒	長期滞在の中で、地元の方との交流体験。四万十川を体験するエコツアーを提供。	高知県土佐清水市（幡多地区）
	汗見川活性化推進委員会	川流域の交流事業。河畔林の整備。間伐ツーリズムの推進。	高知県本山町
佐賀県	NPO 法人 伊万里はちがめプラン	生ゴミの分別による資源化を市民活動で展開。	佐賀県伊万里市
長崎県	茶苑 萩板庵（茶室）	茶道を通してのエコツーリズムの実践。	長崎県佐世保市
	させぼパール・シー株式会社	九十九島の調査、保全活動。エコツアーを実施。海域を利用する漁業者・マリンレジャーの相互理解に尽力。	長崎県佐世保市（佐世保モデル地区）
熊本県	野外教育研究所 IOE	阿蘇におけるエコツーリズムの整備をおこなう。事業者として、他の団体への支援活動。ガイド用教材づくり。	熊本県熊本市
	阿蘇自然案内人協会	団体・個人・自治体の共同体として、資質の向上、情報交換、若手後継者育成に取り組む。	熊本県阿蘇市
大分県	竹田市観光振興計画推進委員会	観光振興計画のエコミュージアム構想ツーリズム事業の具体化。里山保全ツーリズム事業の推進。	大分県竹田市
宮崎県	大河内 森林ガイドの会	九州大学演習林でのガイドツアー。遊歩道の設営も自然に配慮。	宮崎県椎葉村（大河内）
	NPO 法人 五ヶ瀬自然学校	カヌーツーリング、河川敷キャンプ、ゴミ拾いという環境美化活動を合わせたエコツアーの実施。	宮崎県五ヶ瀬町
鹿児島県	合資会社モスガイドクラブ	環境に配慮した i-village の運営。エコツアーの企画。環境保全のイベントの企画運営。	鹿児島県屋久町（屋久島モデル地区）
	屋久島地区エコツーリズム推進協議会	ガイド登録制度の確立・実施。認証制度作業部会も設ける。モデルツアーの実施や、利用のルールづくりも検討。	鹿児島県屋久町（屋久島モデル地区）
沖縄県	座間味村ホエールウォッチング協会	海を共有する渡嘉敷村と官民一体となつての海域保全を推進。自主ルールの制定。	沖縄県座間味村
	エコガイドカフェ	地元とともにルール・ガイドラインを作成。IT を利用した情報発信・交流。	沖縄県宮古島（宮古島・伊良部島）
	石垣島沿岸レジャー安全協議会	事業者による組織でガイドラインを策定。野生生物交通事故防止キャンペーンなど実施。	沖縄県石垣市
	恩納村エコツーリズム研究会	地域で「知ること・使うこと・守ること」を浸透させる。ガイド養成の実施。地域の子どもと保全・調査に取り組む。	沖縄県恩納村
	ホールアース自然学校沖縄校がじゅまる自然学校	地域、特に子どもとの交流。環境負担金制度の運用。「地域ガイド」の仕組み作り。	沖縄県名護市（羽地内海など名護周辺）
	NPO 法人 ホールアース研究所 沖縄事務所	県内各地で養成講座実施。やんばる地域や仲間川でのガイドライン策定に携わる。	沖縄県全域
	沖縄体験学習研究会 ニライカナイ	修学旅行という団体旅行に関するルールづくり。収益循環システムの確立。	沖縄県恩納村（国頭周辺）

「第3回エコツアーリズム大賞」募集のご案内

「第3回エコツアーリズム大賞」の募集を2007年夏頃に行います。

募集対象

●エコツアーリズムへの優れた取り組み事例を募集します

取り組みの例

- ・地域におけるエコツアーリズム推進団体の設立と運営
- ・保全利用協定やガイドラインなどのルールづくりやその継続
- ・農業体験や校外学習などと連携したエコツアーの実践
- ・環境への配慮や環境保全への貢献
- ・エコツアー等の情報提供のしくみ
- ・環境保全や地域振興への観光収益の還元システムづくり
- ・エコツアーにおけるゴミの削減や環境負荷の低減
- ・エコツアーのマーケティングや斡旋などを含めたエコツアー事業の運営 etc.

賞および表彰

●エコツアーリズム大賞(1点)、エコツアーリズム優秀賞と特別賞各数点を予定しています

*受賞者には表彰状と副賞を授与します。

応募資格

1. エコツアーリズムに取り組む各種団体(事業者、企業、地方自治体、地域のグループ等)
2. 経験年数、法人格の有無、種類を問いません。
3. 自薦・他薦の別を問いません。
4. 過去のエコツアーリズム大賞受賞者も応募資格があります。

募集時期

2007年夏頃予定。詳細は環境省ホームページでご案内する予定です(<http://www.env.go.jp>)

審査

エコツアーリズム大賞審査委員会において各賞を選定し、環境大臣が決定します。
受賞者には決定後すみやかに通知し、表彰式を行います。



みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%

発行日： 2007年3月
発行： 環境省自然環境局総務課自然ふれあい推進室
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2
TEL：03-5521-8271 FAX：03-3508-9278
<http://www.env.go.jp/>
制作協力： NPO法人 日本エコツアーリズム協会 Japan Ecotourism Society (JES)